

# 学校業務の効率化

## 県内教員の平日の平均勤務時間（平成28年9月出退勤調査結果）

【小学校】 10時間28分 【高等学校】 10時間 7分

【中学校】 11時間22分 【特別支援学校】 9時間18分

### 職種・性別・年代別の超過勤務時間（中学校）

- ・男性 3時間44分 女性 3時間25分
- ・20代 4時間07分 30代 3時間50分 40代 3時間33分 50代 3時間14分

## 県内教員の土日の出勤状況（平成28年9月出退勤調査結果）

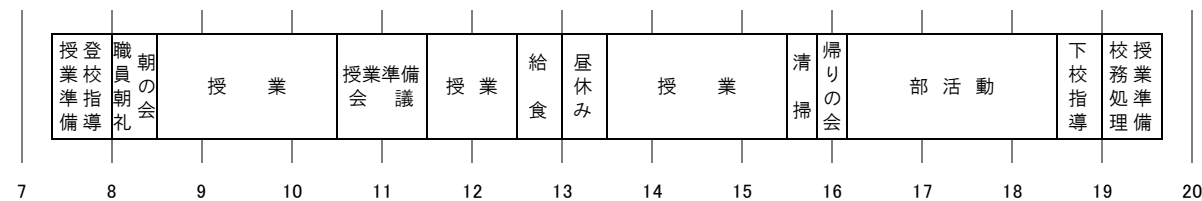
【中学校】 5.2日／10日（9月の休日数）

【高等学校】 4.4日／10日（9月の休日数）

・主な出勤理由は部活動の指導であり、他に補習・テスト、教材研究、行事準備など

※ 全中学校、約半数の高校が土曜・日曜いずれか1日を部活動休養日に設定

## 教員の1日の勤務例（中学校）



## 夏季休業中の勤務状況（勤務する日 26日）

| 学校種別 | 研修  | 学習会等 | 保護者会 | 校内会議 | 授業準備 | 休暇  |
|------|-----|------|------|------|------|-----|
| 小学校  | 5   | 4.5  | 1    | 4    | 5.5  | 6   |
| 中学校  | 4.5 | 3.5  |      | 2.5  | 1.5  | 5.5 |
| 高校   | 3   | 8    |      |      | 1    | 6   |

注：中学校の「授業準備」欄には「校内会議 2.5」と「1.5」が記載されている。高校の「8」は「補習」を指し、「1」と「1」は「テスト」と「体験入学」を指す。

## 【学習指導・生徒指導】

- ◆ 小学校英語の教科化、アクティブラーニングなど新たな教育課題への対応が増加
- ◆ いじめ・不登校や保護者への対応について、対応が難しく長期化する案件が増加
- ◆ 若手の教員ほど、授業準備にかかる時間が長く、部活動の正顧問になる場合が多い。  
負担が集中する傾向
- ◆ 夏季休業中は、補習や部活動などの生徒指導、研修等を実施  
2学期に向けた授業準備の時間確保が課題

## 【部活動指導】

- ◆ 部活動中は、生徒の安全確保等のため、正副顧問の双方が指導・安全管理を実施
- ◆ 土曜日、日曜日でも大会や練習のため教員が出勤することが必要
- ◆ 約6割の教員が、未経験の種目の顧問をしており、技術指導の負担感が大きい。

## 【校務処理】

- ◆ 成績や出欠等を多くの資料に利用するため、集計や転記が負担
- ◆ 各種様式や処理方法が学校毎に違うため、異動直後には事務処理の負担が増加

## 学校における工夫・改善

- 校長会と連携して実施している、会議時間の短縮やノ一残業デーを推進（H27～）
- 全職員の出退勤時刻を調査し、校長、教頭による業務管理を徹底（H28～）
- 遠隔会議システムを活用し、会議や研修のための移動時間を短縮

## 教材の共有化や外部人材の活用

- 各教科の優れた教材、確認テストを県が集約して各学校に提供  
遠隔システムを活用して定期的に情報提供
- 教員の自主的な教材研究等を支援。拡充を検討（H28：50団体）
- 教育研究所の教育相談分野において、カウンセラー・ソーシャルワーカー等の配置を拡充し、対応が困難な事案の支援や夜間の電話対応に活用
- 地域人材を活用して、授業以外の業務を支援。拡充を検討（H28：105校）

## 部活動指導の負担軽減

- 平日は現在の月1日から週1日の休養日の設定を推奨
- 1人が複数の部活動の安全管理をする共同管理体制を推進
- 外部人材を活用した部活動指導体制への支援を強化
  - ・ 教員のかわりに単独で指導や引率ができる指導員を新たに配置
  - ・ 高度な技術指導ができる地域人材の配置を拡充

## 校務処理の効率化

- 県立学校の校務支援システムを統合型に変更し、成績管理などの負担を軽減
- 小・中学校向けの県内統一の校務支援システムの導入を支援  
〔成績処理等の校務にかかる業務負担を軽減（1人1日30分程度）〕